

令和5年度  
教育委員会活動の点検・評価報告書

与論町教育委員会

令和6年2月

# I 点検・評価の概要

## 1. はじめに

平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により、すべての教育委員会が「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価」を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に報告するとともに、住民に対して公表するよう義務づけられた。また、その実施にあたっては、学識経験者の知見を活用するよう義務づけられた。

## 2. 点検評価の実施について

この点検評価は、教育委員会の会議による審議状況や教育委員による調査活動と、教育委員会の事務事業の執行状況について、実績や成果と課題を記述し、次に示す4区分により達成度の評価を行った。

点 数	内 容
4	順調に達成しているもの
3	おおむね順調に達成しているもの
2	達成見込みがあるが課題があるもの
1	順調でないもの

(複数評価の場合、評価の欄は小数点以下第2位を四捨五入した数値で記載。)

## 3. 与論町教育委員会の取り組み方針

これまでは、教育委員会関係者とこども園や各学校管理職の自己評価・意見を集約したものであったが、平成28年度より教育委員会の活性化を項目に入れ、また、教育委員による自己点検、自己評価を加え評価項目は4段階での数値評価とし実施した。

その結果を、教育行政評価委員の意見を集約したものを添えて令和6年第1回議会定例会で報告するものです。

**(1) 教育委員会の活性化の推進**では、評価の観点を「(1)教育委員会の会議の運営」「(2)委員の研修等」「(3)委員の活動等」「(4)その他」の4項目について点検評価を行った。

**(2) 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進**では、評価の観点を「(1)道徳教育の充実」「(2)生徒指導の充実」「(3)人権同和教育の充実」「(4)体験活動の充実」「(5)子ども読書活動の推進」「(6)文化活動の推進」「(7)食育の推進」「(8)体力・運動能力の向上」「(9)健康・安全教育の充実」の9項目について、点検評価を行った。

**(3) 社会の変化に対応し、自立する力を育む教育の推進**では、評価の観点を「(1)確かな学力の定着(学力向上)」「(2)特別支援教育の推進」「(3)キャリア教育の推進」「(4)郷土・伝統文化教育の推進」「(5)海洋教育の推進」「(6)幼児教育の充実」「(7)社会の変化に対応した教育の推進」の7項目について点検評価を行った。

**(4) 信頼され、地域とともにある学校づくりの推進**では、評価の観点を「(1)開かれた学校づくりの推進」「(2)学校運営の充実」「(3)教職員の資質向上」「(4)安全・安心な学校づくり」「(5)教育環境の整備・充実」「(6)特色ある学校づくりの推進」「(7)与論高等学校との連携の充実」の7項目について点検評価をおこなった。

**(5) 地域全体で子どもを守り育てる環境づくりの推進**では、評価の観点を「(1)地域ぐるみでの子どもの育成」「(2)家庭及び地域の教育力の向上」「(3)家庭教育支援の充実」「(4)特色ある教育」の推進(5)「土・日の有効活用」の基本方針の5項目について点検評価を行った。

**(6) 生涯にわたって学べる環境づくりとスポーツ・文化の振興**では、評価の観点を「(1)生涯学習の推進」「(2)生涯スポーツの推進」「(3)スポーツアイランド構想の推進」「(4)文化芸術活動の推進」「(5)文化財の調査・保存・活用」の5項目について年間行事、各種協議会開催内容、文化活動、スポーツ大会開催状況やそれらの資料等をもとに評価と意見をまとめた。

教育行政評価委員

役 職 等	氏 名
与論小学校PTA会長	池 畑 裕 功
茶花小学校PTA会長	裾 分 功
那間小学校PTA会長	沖 健 誠
与論中学校PTA会長	町 田 数 成

## II 点検・評価結果

(4段階評価)

重点施策	評価の観点	成果・課題等	評価
1 教育委員会の 活性化の 推進	(1) 教育委員会の 会議の運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開催時刻や時間の変更ができてとてもよかった。これまでは14時から17時までと長い時間であったが15時から16時半までとコンパクトになりスリム化できた。</li> <li>・発言しやすい明るい雰囲気で開催できたことはよかった。</li> <li>・委員の行事への出席について、次月の行事確認の時にしっかりと明確になったのでよかった。</li> <li>・教育長報告が、口頭だけでなくペーパーにまとめてあったので後で読み返すことができた。</li> <li>・会合への出席や遅刻などがラインで一斉に報告できるのが助かりました。</li> <li>・事務局が丁寧に、議事録作成から何まで大変丁寧であるので感謝している。</li> <li>・事前に資料を配布していただくのはありがたい。</li> <li>・会議はスムーズに行われていると感じる。</li> </ul>	3.3
	(2) 委員の研修等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・島外での研修はとても刺激になり参考になった。もっと予算に余裕があるのであれば様々な課題別の研修や先進地視察などを行えたら委員の資質向上につながるのではないか。</li> <li>・研修してきた内容をまとめて、報告したのは大変助かりました。</li> <li>・コミュニティースクールフォーラムなど、鹿児島での研修に参加でき県内の学校の事例などを勉強できた。</li> <li>・島内での講演会でも教育や子育てに関するものは積極的に足を運ぶことができた。</li> </ul>	3.0
	(3) 委員の活動等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・可能な限り学校や子供たちの活動している行事には積極的に参加し、子どもや親の頑張っている姿にふれて感動した。</li> <li>・学校訪問したら学校の先生たちが一生懸命に子供たちのために向き合って指導してくださっていることに頭がさがりました。</li> <li>・学校側の要望をもっと教育委員会へ言える雰囲気やシステムが必要であると感じた。(学校が遠慮しているように思えた)</li> <li>・学校行事、地域行事への参加ができた。</li> <li>・海洋教育「ゆんぬ学」では、地域サポーターとして“教育”について中学生と対話をするこもあった。</li> </ul>	3.5
	(4) その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・形式的な定例会にするのではなく、委員が自分の立場で発言できる雰囲気を醸成する必要があると思う。</li> <li>・今、マンパワーの足りない教育委員会、そしてたくさんの課題(施設の老朽化・人員不足で開館できない・不登校対策等)を抱えている教育委員会をどうにかして救える方策を探っていかないと、職員が疲弊し、更にマンパワーが減り気力も減退していくことが予想される。少なくとも人員の増員を切に願いたい。</li> <li>・教育委員会から委託された組織・団体が行う事業や、出席する会がどのようなものがあるか把握する必要がある。また、その会長が出席する会議等においては、「前任がそうであったから」という思い込みでの依頼になっていないか検討するべきである。</li> <li>・事前資料や案内などメールでの配布が可能であれば検討してもらいたい。</li> <li>・行事等の出席においては、可能な者が出席し、情報の共有をする今の現状でいいと思う。</li> </ul>	

評価項目	評価の観点	成果・課題等	評価
2 豊かな心と健やかな体を育む教育	(1) 道徳教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各校で「心の教育の日」を設定し、全クラスで道徳の授業参観を行うよう指導するなど、道徳意識の高揚に努めた。</li> <li>・与論中を会場として「地区中学校道徳教育研修会」が行われた。指導主事も事前授業の段階から準備に関わり、3つの学級で道徳科の授業を公開することができた。また、県の道徳教育フォーラムに、与論町の代表として与論小の教諭の1人を参加させることができた。</li> <li>・町内でのいじめ認知件数が一定程度あることから、引き続き道徳教育の充実を図る必要がある。</li> </ul>	4.0
	(2) 生徒指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校において年間5回以上のいじめアンケートを実施し、積極的にいじめを認知・指導するよう指示している。また、不登校や問題行動の状況について定例教育委員会で情報共有をし、今後の指導の在り方について協議している。</li> <li>・町単独予算でSSWの雇用(2人)を継続し、家庭訪問や個別面談等により、児童生徒・家庭を支援した。</li> <li>・生徒指導推進のためのNITSオンライン研修に参加するよう各校に働きかけ、中学校の教諭1人の受講につなげた。</li> <li>・中学校において起立性調節障害による長期欠席者が急増している。また、不登校についても、複数の関係機関と連携をしないと解決の道が見出せないような複雑な案件が残されており、「第3の居場所づくり」の検討が必要である。</li> </ul>	3.0
	(3) 人権同和教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校の経営グランドデザインの上位に「人権尊重の精神」に係る文言を掲げるよう指示するとともに、人権教育研修資料「なくそう差別 築こう明るい社会」や人権教育指導資料「仲間づくり」等の活用について啓発した。また、人権に係る職員研修を年3回以上位置付けるよう各校を指導した。</li> <li>・今年度も「人権教育指導者研修会」を町教委主催で開催した。各学校の人権教育の取組を一層充実させるためのよい機会となった。</li> </ul>	3.0
	(4) 体験活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小・中学校の宿泊学習は、今年度も、宿泊を伴わない「体験学習」としたが、各学校では様々な自然体験学習が計画され、町教委学務課もその活動を具体的にサポートした。</li> <li>・海洋教育科「ゆんぬ学」における様々な体験活動や、三線やエイサー等の伝統文化の継承に関する体験、サトウキビ栽培や黒糖作りなどの食に関する体験などが各学校で円滑に実施されるよう、地域人材の紹介や、交通手段の手配などを積極的に行った。</li> </ul>	4.0

(5) 子ども読書活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度も全校に学校図書館司書を配置できたとともに、司書教諭・学校司書合同研修会を開催し、それぞれの職務を確認することができた。各小・中学校では、学校司書の尽力に支えられて読書活動が非常に充実している。</li> <li>・蔵書冊数が図書標準に達していない学校に対しては、ふるさと納税の活用も検討しながら蔵書の充実を図る必要がある。</li> <li>・学校図書館司書の全校配置については、来年度も必須の事項であると考えている。</li> </ul>	3.0
(6) 文化活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度も、小・中・高音楽発表会を開催することができたとともに、ヨロン・おきなわ音楽交流祭に向けて、各学校・各校区の文化芸術団体の参加を促した。</li> <li>・図画作品審査会では、こども園から中学校までの他校種の職員が参加し、技法指導や鑑賞指導の力量形成を図ることができた。</li> <li>・書き初め大会は、ここ数年で最も多い参加者だった。後日、優秀作品を役場に展示したり、教育委員会だよりに掲載したりした。</li> <li>・地域移行をしている与論中学校吹奏楽部の定期演奏会について、広報活動を中心に運営の協力をした。</li> </ul>	4.0
(7) 食育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校で「早寝、早起き、朝ごはん」が推進されており、「弁当の日」についても、各学校の創意工夫により実践が継続されている。</li> <li>・大島支庁と連携した食育支援事業として、2つの学校で食育支援員を招いた「食に関する授業」を実施することができた。(講師:有元カスエさん、与論町漁業協同組合ほか)</li> <li>・毎月1回「ユンヌマサムヌの日」を実施し、地産地消の推進と郷土料理の積極的な導入の視点から給食を充実させた。</li> <li>・地方創生臨時交付金を活用してマンゴーなど地域の特産品を積極的に学校給食に取り入れ、地元の特産品に対する理解を深めさせた。</li> </ul>	3.5
(8) 体力・運動能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校陸上記録会に企画段階から関わり、前日・当日の運営を積極的にサポートすることができた。</li> <li>・各小・中学校に「たくましい“かごしまっ子”育成推進プラン」を作成させ、各校で運動好きな児童生徒の育成のための取組が計画的に推進されるよう指導した。</li> <li>・部活動の地域移行をより一層推進するために、与論中学校の運動部活動と地域のスポーツ活動とを繋げ、関わりを深める「部活動コーディネーター」を地域から任用したい。</li> </ul>	3.0
(9) 健康・安全教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内の医療機関と連携しながら学校検診を計画的に行い、再検査等が必要な児童生徒について適切な受診指導を行った。</li> <li>・健康・安全教育に関する研修会の開催情報を収集し、都度、各学校に知らせた。養護教諭を中心に、健康教育についての研修会への参加が多くなされた。</li> <li>・インフルエンザシーズンには、各学校に対し、感染予防の指導や感染拡大防止の措置を行った。</li> <li>・通学路や学校施設の安全面について各学校から適宜聞き取り、予算等の状況に応じつつ、可能な限り対処した。</li> </ul>	3.5

評価項目	評価の観点	成果・課題等	評価
<p style="text-align: center;">3</p> <p style="text-align: center;">社会の変化に対応し、自立する力を育む教育</p>	(1) 確かな学力の定着(学力向上)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理職研修会や学力向上担当者研修会等で学力向上のための指導を継続的に行った。昨年度作成した「与論町授業スタンダード」も年度内に2回見直し、各学校での活用を指導した。</li> <li>・「自学ノート」の取組を推進することにより、各校で自主学習の習慣が定着しつつある。</li> <li>・国や県の学力調査の実施後は、各学校の結果の状況を把握し、適宜指導した。3学期に行われた鹿児島学習定着度調査では、中学校を中心に好結果を出せた教科が多かった。</li> <li>・小学校SET加配教諭の配置やALTとの契約等により、外国語科・外国語活動の指導充実を図った。</li> </ul>	3.5
	(2) 特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育支援委員会や特別支援教育連携協議会の開催により、与論町の特別支援教育に「縦の連携」と「横の連携」を生み出す工夫をした。</li> <li>・大島特別支援学校の職員を頻繁に招き、就学相談会やこども園及び各学校の巡回相談を充実させた。</li> <li>・特別支援教育の啓発を目的とした町独自のリーフレットを作成し、就学時健康診断や特別支援教育連携協議会等の様々な場で保護者・関係者に配付した。</li> <li>・知名町の児童発達支援センターや、与論徳洲会病院、与論町社会福祉協議会と連携し、発達検査の実施体制を更に充実させることができた。</li> <li>・特別支援教育支援員については、年度当初から、予定していた人員を配置することができた。国からインクルーシブ教育が強く求められていることもあり、来年度は今年度と同様かそれ以上の人員確保が必要である。</li> </ul>	4.0
	(3) キャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校、中学校、与論高校でのキャリアパスポート(夢ファイル)の実施、引継ぎを進めている。</li> <li>・地域おこし協力隊や海洋教育地域コーディネーターの働きにより、各学校のキャリア教育が充実している。中学校では職場体験学習の成果物として職業図鑑「きぼとらる ゆんぬんちゅ」が制作され、職業講話に初めて取り組む小学校も出始めた。</li> </ul>	4.0
	(4) 郷土・伝統文化教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海洋教育が充実してきたことにより、「与論町の魅力を再発見するとともに、与論町の課題に気付き、郷土と自分との関わり方を考える場」を新たに生み出すことができた。</li> <li>・各学校・各園において、ユンヌフトゥバを大切にした教育活動が展開されるよう依頼した。</li> <li>・各小・中学校は、運動会や文化祭に向けてエイサー等の練習を積極的に進め、町教委も、指導者の派遣等により各学校の取組を支援した。</li> <li>・「かごしまジュニア検定」への参加について各学校に働きかけたところ、今年度は2つの小学校が検定に参加した。</li> </ul>	4.0

<p>(5) 海洋教育の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度も、町内の全小・中学校が、教育課程特例校として「海洋教育科『ゆんぬ学』」を推進した。海洋教育科のねらいを「海と人との共生に係る見方・考え方を働かせ、与論島の海とくらしの課題について探究することを通して、『島だちの力』を身に付ける。」と設定し、地域サポーターの活用により、各学校での学びが一層充実した。</li> <li>・「第4回ヨロン海洋教育フェア」には300人を超える参加があり、小・中・高校の児童生徒が他校の学習成果を知る機会となったとともに、町民も海洋教育についての理解を深めることができた。</li> <li>・地域おこし協力隊や地域コーディネーターの尽力により、教育機関、行政機関との連携が非常に充実してきた。外部からの問い合わせも増えてきたため、HPやSNS等でより力強く発信する必要がある。</li> </ul>	<p>4.0</p>
<p>(6) 幼児教育の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園長研修会を定期的に実施し、園長と直接協議しながら、法的、教育的、経営者的な側面から指導と助言をすることができた。</li> <li>・「こども園研修会」や「こ小連携研修会」において、年長児でのアプローチカリキュラムと小学1年生のスタートカリキュラムの重要性を繰り返し指導した。また、ハレルヤこども園の自主研修会を各小学校に案内するなど、小学校の教員が幼児教育を理解する機会を設けた。</li> <li>・指導主事がこども園の5歳児クラスを適宜訪問して担任と情報共有をしたり、5歳児の保護者の就学相談を積極的に実施するなど、こ小接続の取組を充実させた。</li> </ul>	<p>4.0</p>
<p>(7) 社会の変化に対応した教育の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GIGAスクール構想については、予算状況の厳しさを乗り越えながら、より一層の配備を進めた。昨年度整備した校務支援システムや、今年度整備したAIドリルは、各学校に大いに活用されている。</li> <li>・性的マイノリティへの配慮と、男女共同参画の視点からの学校づくりについて、管理職研修会や各種担当者研修会で繰り返し話題にした。各学校の意識の高まりもあり、今年度は、中学校において性的マイノリティの当事者による講演会が開催された。</li> <li>・指導主事が与論町相撲大会の役員会に参加し、性的マイノリティへの配慮についてガイダンスを行った。</li> <li>・学校の働き方改革の視点から、町教委の主催事業や学校への諸調査の在り方について引き続き配慮をしていく必要がある。</li> </ul>	<p>3.5</p>



評価項目	評価の観点	成果・課題等	評価
4 信頼され、地域とともにある学校づくり	(1) 開かれた学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会のホームページにて、各学校での校則等や海洋教育の計画、児童生徒作品の展示情報などをこまめに発信した。また、各学校の「学校だより」を町教委が一括して学校ホームページに掲載し、全ての学校の「学校だより」をいつでも・誰でも読むことができるようにした。</li> <li>・海洋教育の地域サポーター・地域コーディネーターや部活動指導員、吹奏楽部地域サポーターを各学校に派遣し、「開かれた学校づくり」を進展させた。</li> <li>・11月の「地域が育む『かごしまの教育』県民週間」のポスターを作成し、町内各所に掲示した。</li> </ul>	3.5
	(2) 学校運営の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理職研修会を通じて町教育行政の施策を伝えるとともに、各小・中学校長が目標をもち、各学校の課題に応じた学校運営に取り組むよう指導した。</li> <li>・町教委学校訪問を年間2回実施し、学校経営に対する助言を行った。</li> <li>・指導主事の学校訪問の際には、毎回、組織力向上の視点からの指導助言を行った。</li> <li>・校長会、教頭会からの要望に添う形で、町主催の諸行事や諸会議の在り方の改善に努めた。</li> </ul>	3.0
	(3) 教職員の資質の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適時に服務指導を行い、今年度も、教職員の服務規律違反0件を達成することができた。</li> <li>・各小・中学校の校内研修や、経験年次研修などの場で、指導主事が指導や助言を行い、教職員の資質の向上に努めた。</li> <li>・大島教育事務所の指導主事や、県総合教育センターの研究主事を定期的に各学校に招聘し、中・長期的な視野での指導をいただいた。</li> <li>・大島教育事務所の管理課長を講師とした教職員等夏季研修会を実施し、教職員が研鑽を積む機会とした。</li> </ul>	3.5
	(4) 安全・安心な学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通学路安全推進会議を開催し、各校の通学路に関する課題を解決すべく、学校、道路管理者、警察、自治会代表、保護者代表等の連携を図った。</li> <li>・校舎、校庭、教職員住宅の修繕補修を行い、児童生徒教職員が安心して過ごすことができる環境整備に努めた。</li> <li>・スクールガード・リーダーの事業を継続し、登下校時の見守りや校内巡視などの活動を年間30回行った。</li> <li>・水難危険区域マップを校外生活指導連絡会で提示したり、与論町通学路交通安全プログラムを町教委ホームページで公開したりするなど、啓発活動に取り組んだ。</li> </ul>	3.0
	(5) 教育環境の整備・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての小・中学校で校舎の安全点検を実施させ、危険箇所等については逐一状況を報告させた。</li> <li>・「与論町総括安全衛生員会」を開催し、教職員の労務環境の改善を町として支援できるようにした。</li> <li>・老朽化等に伴う校内の危険箇所の修繕を随時実施した。ただし、修繕が追いつかず、年度をまたぐ箇所も数多くある。また、教職員住宅の住環境には常態的に課題がある。</li> <li>・茶花小学校及び那間小学校については、建築物の状況を鑑み、早期の立て替えが必要である。</li> </ul>	2.0

(6) 特色ある学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「中学校及び高校の2学級存続」を目指したふるさと留学生事業を継続することができた。今後も、必要に応じて制度を見直しながら、受け入れ活動の充実を図っていく必要がある。</li> <li>・町として進める「島だちの教育」が、児童生徒にどのような資質・能力を身に付けさせることをねらっているのかを、各学校に具体的に伝え続けていく必要がある。</li> <li>・漢検・英検補助金制度の理解が進み、各学校からの数多くの受検があった。</li> <li>・これまで町教委が指導してきた「与論と沖縄を学ぶ学習」、「夢育成事業」、「与論のことわざ」、「弁当の日」などの取組が持続可能なものとなっているかどうかを在り方を見直し、必要に応じて改善を図りたい。</li> </ul>	3.0
(7) 与論高等学校との連携の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中高乗り入れ授業を進めることができた。また、今年度も、与論高校の家庭科の教諭が連携型講師として中学校に来校し、授業だけでなく学習評価も実施した。</li> <li>・小・中・高校連動型の海洋教育の実践が一層充実し、「ヨロン海洋教育フェア」での高校の発表が高度化している。また、今年度も高校3年生のアシスタントティーチャーの取組を3小学校が受け入れており、小・高連携もさらに進んでいる。</li> <li>・一般的には「県立学校であるために地教委としては協力できないこと」が、与論においては「連携型高校であるために町教委として協力すべきこと」になる場合がある。高校側の要望に耳を傾けながら、よりよい形で連携できるよう検討していく必要がある。</li> </ul>	3.5

評価項目	評価の観点	成果・課題等	評価
5 地域全体で子どもを守り育てる環境づくり	(1) 地域ぐるみでの子どもの育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各単位子ども会・育成会のそれぞれの特性を活かした活動を実践することができた。全15子ども会が参加し、与論島クリーン大作戦「夏」「秋」の2回の清掃活動を実施し、島内の海岸やヨロンマラソンコースをきれいに清掃することができた。</li> <li>・子ども会育成連絡協議会理事会において、各子ども会の活動内容や計画・課題等を話し合い情報を共有することで、活動の充実を図り、活性化に努めた。</li> <li>・地域人材活用推進コーディネーター候補者の発掘及び生涯学習リーダー養成研修会への参加はできなかった。</li> <li>・大島地区ジュニア・リーダー研修会及び九州地区子ども会ジュニアリーダー研修会鹿児島大会へは台風の影響により参加できなかった。「社会を生き抜く力」や「自己肯定感」を育むための研修活動を実施して参加者数の増加を図ることや、交流活動・体験活動推進の重要性を再確認し充実した活動にすることが、ジュニア・リーダー養成において課題である。</li> </ul>	4.0
	(2) 家庭及び地域の教育力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・与論町子ども会育成連絡協議会において、「青少年育成の日(第3土曜日)」・「家庭の日(第3日曜日)」・「育児の日(毎月19日)」の啓発、町民一斉清掃の日の設定と啓発を行った。</li> <li>・子ども会花壇づくり研修会、花壇コンクールを実施した。14子ども会の参加があり、学んだ知識を活かして花壇づくりに取り組むことができた。</li> <li>・家庭教育学級をとおして「早ね、早おき、朝ごはん」の啓発を行った。</li> <li>・「人の子も、わが子も、みんな地域の子」啓発はできなかった。</li> <li>・「土日の有効活用の基本方針」の啓発については、学校長をとおして共通理解に努めた。</li> <li>・家庭教育学級においてスマートフォン等を使用したゲームのし過ぎ防止の啓発に努めた。</li> </ul>	3.0
	(3) 家庭教育支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭教育学級合同開講式を行った。各小中学校は、家庭教育学級を開催し、家庭教育力及び人権教育の向上に努めた。</li> <li>・家庭教育相談員の育成・研修会において生涯学習課職員1名が家庭教育支援員スキルアップ講座を受講した。</li> <li>・子育てに関する相談事業は実施できなかった。</li> <li>・町PTA連絡協議会の事務局(那間小)と情報共有を図りながらPTA活動の連携を深めた。</li> </ul>	3.0

(4)「特色ある教育」の推進	<p>・町内放送によるユンヌフトゥバの活用をとおして、学習の機会の拡充に努めた。与論ことわざカレンダーの活用及び郷土教育資料(町誌やユンヌの歩み等)活用の推進は出来なかった。ユンヌ検定, 1月文化財防火訓練を実施した。与論カルタ大会は, 各子ども会上半年1チームの参加, トーナメント戦とし, 子どもたちが楽しみながら学ぶ大会となった。また, 中学生が運営をすることで, 小学生にとっての模範となり, 地域の中での役割を再認識することができた。</p>	4.0
(5)「土・日の有効活用」の基本方針	<p>・各単位子ども会において花壇整備に取り組み, 花いっぱい運動を推進した。与論町スポーツ少年団登録説明会及び与論町子ども会育成連絡協議会理事会において, 第3土曜日は青少年育成の日, 第3日曜日は家庭の日であり, 原則その目標にあった活動を中心に行い, その他の趣旨の団体活動は自粛する旨, 周知を図った。</p>	3.0

評価項目	評価の観点	成果・課題等	評価
6 生涯にわたって学べる環境づくりとスポーツ・文化の振興	(1)生涯学習の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書の推進・普及を図るため、学校等の7施設に移動図書館で月1回出向き、巡回貸出しを行った。</li> <li>・子どもの読書活動を促進するため、1年生図書館招待、こども園の受入を行った。また、ボランティアグループの日曜日のおはなし会、親子でいっしょにあしぼんDAYを行った。</li> <li>・星空観測会や音楽イベント等新しい取り組みもすることができた。</li> <li>・職員のスキルアップの向上のために、鹿児島県立図書館から講師を招聘し、司書教諭・学校図書館司書と合同で「著作権」について研修を行った。</li> <li>・新鮮で魅力ある図書館資料の充実・施設の老朽化が課題である。</li> <li>・与論町中央公民館・茶花地区公民館の運営が直営となった。公民館教室などを開催し生涯学習の活動の充実を図っている。</li> <li>・城、東区、古里の自治公民館長と青少年センター施設の管理に関して昨年度締結した基本協定書(令和2年度から令和6年度)に基づき年度協定を締結し、自治公民館活動の推進に努めた。</li> <li>・感染症5類以降に伴い、社会教育関係団体と連携した各種行事等を実施することができた。</li> <li>・中学校生徒・職員を対象に、人権講話を実施した。「LGBT理解講座～関係ないって思っていない?『誰もが「自分らしく」生きるために。』と題して、鹿児島より講師に御来島いただき、講演していただいた。LGBTについての知識や理解を深め多様性を受容し尊重することで、誰一人取り残さない、誰もが自分らしく生きられる社会を実現するための一助となることを目的とし、対面形式で実施したことで、講師と会場が一体となった講座を開催することができた。</li> </ul>	4.0
	(2)生涯スポーツの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスが5類に移行し、町民体育大会や町駅伝大会、大島地区相撲競技大会、町相撲大会、少年相撲教室など各種スポーツ大会を開催することができた。また、スポーツ推進委員連絡協議会の通常定例会や講習会への参加・運営協力等、活動の充実に努めた。</li> <li>・県民体育大会大島地区大会や大島地区駅伝大会に参加した。</li> <li>・体育施設指定管理委託者のヨロンSCと連携して、町体育協会の各種スポーツ団体やスポーツ少年団の支援協力を行った。</li> </ul>	3.0
	(3)スポーツアイランド構想の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ合宿の誘致やコーチ・トレーナーの育成に取り組むことができなかった。今後、商工観光課や観光協会、スポーツクラブ等と連携して誘致推進に取り組む必要がある。</li> </ul>	1.0

<p>(4) 文化芸術活動の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・与論カルタ大会は、各子ども会上学年1チームの参加、トーナメント戦を実施し、伝統文化の継承に努めた。</li> <li>・文化協会と連携しながら、2月に町文化祭を開催予定。本土復帰70周年を記念し、生活の移り変わりについての企画展示の準備を進めている。</li> <li>・芸術・文化に親しむ環境づくりのために、2月に町生涯学習フェア・文化祭・公民館教室発表会の同日開催を計画。今後、開催に向けて、各団体・講座講師と連携しながら準備を進めていく。</li> </ul>	<p>3.0</p>
<p>(5) 文化財の調査・保存・活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財の調査としては、令和元年度から引き続き、与論城跡の国指定に向けた調査事業を行い、与論城跡の推定城域の把握と次年度の報告書作成に向けた整理作業を実施した。</li> <li>・島外の大学による遺跡の調査への協力や、島内で計画されている住宅建設地内の埋蔵文化財の確認調査を行い、発見された遺跡や文化財は文化財保護法に基づく手続きを行った。</li> <li>・町指定有形民俗文化財の現状確認作業を有識者の協力の下に行った。結果、保存状況に問題が確認された。指導監督の立場にある行政側もこれまで十分な指導が行えなかったこともあるため、今後の対応方法について県などとも協議しながら検討を行いたい。</li> <li>・与論十五夜踊り保存会・与論島芭蕉布保存会へは町補助金による運営補助を行った。</li> </ul>	<p>3.5</p>

### Ⅲ 教育行政評価委員意見のまとめ

重点施策	評価の観点	成果・課題等について評価委員の意見
1 教育委員会の活性化の推進	(1) 教育委員会の会議の運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議のスリム化が行えたことはすばらしと思う。</li> <li>・時間についてもできるだけ仕事に支障が出にくい時間帯にできれば、会議参加への負担軽減及び参加率向上が図れると思う。</li> <li>・評価は上げていいのでは。</li> <li>・ペーパーレス化、データ化は是非進めてほしい。</li> </ul>
	(2) 委員の研修等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どのような研修があり、成果が得られているかわかりにくい。</li> <li>・体験し学んだことを報告すれば参加できなかった方も参考になる。</li> <li>・研修には積極的に参加して落とし込んでほしい。</li> <li>・研修参加後の報告会を定期的で開催してほしい。</li> </ul>
	(3) 委員の活動等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価は適正であると思う。</li> <li>・様々な行事に参加し、子どもや保護者、先生方、地域の方々とふれあうことは大事である。</li> <li>・学校側の要望はたくさんあると思うので、「言える雰囲気づくり」は是非行ってほしい。</li> </ul>
	(4) その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供たちへの投資は未来のためには必要である。</li> <li>・教育委員会がマンパワー、予算不足で満足した活動ができないのは問題である。</li> <li>・職員の疲弊は大変な問題だと思うので解消できるよう頑張してほしい。</li> <li>・PTAとのつながり自体は少ない気がする。教員抜きで保護者と教育委員会での意見交換の場があってもいいのでは。</li> </ul>

重点施策	評価の観点	成果・課題等について評価委員の意見
2 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進	(1) 道徳教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高い評価をつけていることから、充実した活動ができたのだと思う。引き続き高い意識で取り組んでほしい。道徳教育は重要。</li> <li>・子供たちの様子から、成果を上げているように感じる。</li> <li>・郷土の先人が築いてきた「不屈の心」を育成したい。</li> </ul>
	(2) 生徒指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・風紀の乱れは感じないが、不登校の生徒が増加していると思う。学校と家庭が一体となり、地域やPTAにも声をかけて全体で取り組むようにしてほしい。</li> <li>・SNSでのいじめや教員間でのいじめ等もしっかりと見てほしい。</li> </ul>
	(3) 人権同和教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身もよくわからいところが多い。昔から触れてはいけないところを恐る恐る教えているような気がする。</li> <li>・人権同和教育と真摯に向き合う姿勢が教育側に必要である。</li> <li>・伝える側もフラットな立場で教育する必要がある。</li> <li>・LGBTの世の中、しっかりと子供だけでなく大人こそ理解する時だと思えます。</li> <li>・制服などの服装に関しても改善が必要な時にきていると感じる。</li> </ul>
	(4) 体験活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価は適正であると思う。</li> <li>・農業体験はとても良いと思う。実際に体験することは、良い学びとなる。</li> <li>・海洋教育も引き続き取り組んでほしい。</li> <li>・できる限りの範囲で、またPTA等への協力をお願いしたいです。</li> <li>・地域を活用し、農業体験、文化体験を増やしてほしい。</li> </ul>
	(5) 子ども読書活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館司書を配置していただきありがとうございます。</li> <li>・読書が形だけの読書にならないよう御指導をお願いします。</li> <li>・文字に親しむ機会となるので、積極的に行ってほしい。</li> <li>・本のデジタル化にともなうデメリットに関しても子供たちに理解してほしい。</li> </ul>

(6) 文化活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな行事の削減が進む中で子どもたちの発表する機会は設けてほしい。評価は適正だと思う。</li> <li>・子どもたちが交流できる場を継続して設けてほしい。</li> <li>・ヨロン・おきなわ音楽交流祭は、無くならないか心配です。</li> </ul>
(7) 食育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土料理にふれ合う機会を多く提供しているので継続してほしい。</li> <li>・地元の特産品を給食で提供することは、郷土を知る意味で非常に良い取り組みである。</li> <li>・地産地消や郷土料理の取組は素晴らしい。</li> </ul>
(8) 体力・運動能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価は概ね適正であると思うが、体力の平均的な低下傾向が全面的にも見られると思うので、運動が楽しいと思える環境づくりのための施策が必要だと思う。</li> <li>・中高の部活動に一貫性がないことも議論してほしい。中学校でしていた部活が高校でできないのはどうなのか。</li> <li>・少年団活動は、一部の保護者に負担がかかっている。負担軽減対策も必要では。</li> <li>・部活動の地域移行についても人材が不足している状況と思うので、学校との連携は不可欠だと思う。</li> </ul>
(9) 健康・安全教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インフルエンザ等の感染症が流行りだしたら、マスク着用や手洗いを徹底してほしい。</li> <li>・能登半島地震などを事例に備蓄の重要性、災害時の対応を含めた対策が必要。</li> </ul>

評価項目	評価の観点	成果・課題等について評価委員の意見
3 社会の変化に対応し、自立する力を育む教育	(1) 確かな学力の定着(学力向上)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できる子とできない子の二極化傾向もあると思うので全体的な底上げをお願いしたい。</li> <li>・中高一貫教育6年間のスパンで目標と達成度を評価するのもいいのでは。</li> <li>・毎年、県や国の平均より高いのは、教育委員会・学校が頑張っていた成果だと思います。</li> </ul>
	(2) 特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な特別支援の要望がある中で人員確保が大変だと思うが、情報媒体を駆使するなど何とか確保願いたい。</li> <li>・引き続きがんばってほしい。</li> </ul>
	(3) キャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減少が進む中で、各種人材不足が予測されるので、教育の中でいろいろな職業を知り経験できる場の提供を推進してほしい。</li> <li>・早いうちから職場体験などキャリア学習を進めることは、視野を広める意味で良いと思う。</li> <li>・素晴らしい活動だと思う。</li> </ul>
	(4) 郷土・伝統文化教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土の歴史や文化を学ぶことは、非常に良い。</li> <li>・方言は日々触れることが重要だが、先生や親も話せない人が多いのでまずは大人から。</li> <li>・ユンヌフトゥバを使う場所がほとんどない。会話のみならず、LINEや日記にも広げてはどうか。</li> </ul>
	(5) 海洋教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海洋教育は充実している。</li> <li>・発表の場を用意してくれているのもすごく素晴らしい。</li> </ul>



(6) 幼児教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こども園の保育士不足は、幼児教育の充実を大きく妨げる要因であると思う。</li> <li>・保育士が健康でやりがいを持ち従事できる環境整備は急務であると思う。</li> <li>・園長だけでなく、職員やパート職員とも定期的に意見交換をしても良いのでは。</li> <li>・保育士の資格を持っている方はたくさんいるのに、保育士の職につかないということも問題視しないといけない。</li> </ul>
(7) 社会の変化に対応した教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GIGAスクール構想は推し進めてほしい。あわせてネットリテラシーの教育も並行して取り組んでほしい。</li> <li>・相撲大会において性的マイノリティへの配慮はもちろん必要であると思うが、共働きの精神についても指導してほしい。</li> <li>・働き方改革に関しては、学校側だけでなく、PTAとしての問題になっているように感じる。</li> </ul>

評価項目	評価の観点	成果・課題等について評価委員の意見
4 信頼され、地域とともにある学校づくり	(1) 開かれた学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会のHPが充実していることを把握していなかった。</li> <li>・HPの活用等引き続きお願いしたい。</li> </ul>
	(2) 学校運営の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働き方改革が進むと、中・高においても部活動の指導を地域が行うことになる。指導者をどう確保するのか。</li> <li>・働き方改革等むずかしい問題もあると思うが頑張してほしい。</li> </ul>
	(3) 教職員の資質の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアが発達し、様々な情報を知ることができる。</li> <li>・子供たちと接する先生方も大変だと思う。先生のケアも充実させたい。</li> </ul>
	(4) 安全・安心な学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソフト面については、継続して活動してほしい。</li> <li>・ハード面は予算が伴うのでできるところから取り組んでほしい。</li> <li>・見守りをしている地域の老人クラブの方と生徒との交流の場があると、より挨拶も増えるのでは。</li> </ul>
	(5) 教育環境の整備・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を行うすべての教室にクーラーを設置してほしい。</li> <li>・教職員住宅の住環境に関しては早急に対応する必要がある。</li> <li>・お酒との付き合い方等PTAが考えなければいけない時代にある。</li> </ul>
	(6) 特色ある学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各与論会の方々と協力して、各学校で講話をしてもらってはどうか。</li> <li>・ふるさと留学生事業など引き続き取り組んでいただきたい。</li> </ul>
	(7) 与論高等学校との連携の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が少なくなると、専門教育をできる先生が不足する。中・高乗り入れ授業を継続してほしい。</li> <li>・町立と県立の壁は厚いと思うが、中高連携をうたっていることが形だけにならないように6年間教育でのメリットを作り出してほしい。</li> <li>・アシスタントティーチャーは素晴らしい取り組みだと思う。</li> <li>・将来先生になりたい子どもたちのアシスタントもしてほしい。</li> </ul>

評価項目	評価の観点	成果・課題等について評価委員の意見
5 地域全体で子どもを守り育てる環境づくり	(1) 地域ぐるみでの子どもの育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続して取り組んでほしい。</li> <li>・子供大会の中で、集落対抗のスポーツ大会の種類を増やしてはどうか。</li> </ul>
	(2) 家庭及び地域の教育力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアについては、学校より家庭での教育が重要だと思う。親子でメディア利用に対する研修があっても良いのでは。</li> <li>・青少年育成の日等々の周知は行き届いていないように感じる。</li> </ul>
	(3) 家庭教育支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者のPTA参加をもっと促したい。</li> </ul>
	(4) 特色ある教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生のスポーツ大会やカルタ大会では、中学生が審判や進行するのは良い取り組みだと思う。</li> </ul>
	(5) 「土・日の有効活用」の基本方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3土曜日、第3日曜日が青少年育成の日や家庭の日であることを初めて知った。どのような活動を推奨しているのか周知してほしい。</li> <li>・第3土曜日、朝は少年団活動を自粛しているが、青少年育成のための何かが行われているわけではなく、少年団活動を行っている方が青少年育成のような気もする。</li> <li>・もう少し周知が必要と感じる。</li> </ul>

評価項目	評価の観点	成果・課題等について評価委員の意見
6 生涯スポーツ文化の学べる環境づくりと	(1) 生涯学習の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続して取り組んでほしい。</li> </ul>
	(2) 生涯スポーツの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ少年団の予算等が削られていくことがとても寂しく感じる。</li> <li>・子供たちへの予算は確保願いたい。</li> </ul>
	(3) スポーツアイランド構想の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一番評価が低い。優先順位なのか、予算なのか、具体的なターゲットが無いのか原因はわからないが、単年度での評価ではなく5年・10年の目標を掲げ、進捗評価を行えばよいのではないかと。</li> <li>・誘致推進をお願いしたい。</li> <li>・積極的に取り組んでほしい。</li> </ul>
	(4) 文化芸術活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・島で芸術にふれるのはむずかしい。</li> </ul>
	(4) 文化財の調査・保存・活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆんぬ学で海洋教育は習うが、各種文化財の歴史や役割等も子供たちに伝えてほしい。</li> <li>・すばらしい活動だと思う。</li> </ul>

### 総合的な意見

- 忙しい中とても頑張ってください頭が下がります。少子化が加速度的に進んでいく中でこの進行をとめるためにも教育行政の役割は非常に大きい。町全体で魅力ある教育の町をつくっていただけたいですね。
- 各与論会の方々と協力し、キャリア学習を拡充するのもいいのではないかと。様々な職業や地位のある方々なので、話を聞き対話することで良い体験ができると思う。また、将来の事を少しはイメージできると思う。
- 時代の流れも大きく変わる中、変えていかなければならないところも多くなったと感じる一年でした。
- 各種行事、研修など町民のための取組に感謝します。
- 引き続き豊かな心づくりの教育をお願いいたします。